

(朱は今年度新規)

小値賀町立小値賀小学校 小値賀小学校大島分校
校長 酒井 元治

**島から日本一楽しい学校を
～子どもが未来に誇れる学校～**

誇れる仲間

こんな仲間が
いたと誇れる学校

- ・ともに学ぶ意味を感じとれる子ども
- ・**ともに伸びることに喜びを持つ子供**
- ・ともに動くことを喜ぶ子ども
- ・縦割り班(若芽活動)の充実
- ・いじめのない学校(絶対に許さない、アンテナを張る)
- ・子どもを認める学校(教師から、児童相互で)

誇れる先生

こんな先生が
いたと誇れる学校

- ・学習内容に沿っためあてとまとめ
- ・学習規律の一貫性(系統的な取り組みが学校力になる)
- ・職員相互の授業研究
- ・子どもの伸びを喜ぶ教師
- ・真剣に叱り、真剣に褒める(厳しい指導にはフォローを)
- ・子どもから学ぶ教師

誇れる郷土

こんな人に包まれて
いたと誇れる学校

- ・保護者・地域からの情報を生かす
- ・迅速で的確な対応が信頼を厚くする
- ・教育活動のアピール(各種たより、HP)
- ・包まれている温かさに気づかせる
- ・小値賀(大島)でできること、しかできないこと(遣・グロ)
- ・小・中・高一貫教育の充実

めざす児童像

助け合う子 よく考える子 たくましい子

全ての中心は子ども 子どもの姿こそ私たちの成果

(迷ったときは子どもに立ち返ろう)

1 小値賀っ子につけたい4つの力

○決める力

堂々と自己決定ができる力。

惑わされず、自分の考えをしっかりと持つ力。学習面でも生活面でも他人事ではなく、自分のこととして、自分の考えを決める力。

○表す力

自分の考えを表現する力とその意欲。

いくらいい考えを持っていても、それを表現できなければ社会では役に立たない。自分の考えを表現しようとする意欲とその表現力。

○チャレンジする力

失敗を恐れずやってみようとする勇氣。変化が著しい社会を生き抜かなければいけない子どもたち。新たなことにも取り組んでみようとする意欲。得意なこと、好きなことはレベルアップさせて、苦手なことは少しずつ。そして、小さな成功体験を積み重ねる。

○つながる力、つなげる力

スタンドアロンでは社会を生き抜けない。他人とつながろうとする力と自分とは違う他人を認め、つなげようとする力。

2 **学校力** 学校力が学級経営を助ける（落ち着いた教育、感謝の心）

（1）凡事徹底：まずはここから

「元気がある」だけに留まらない。学校生活の中にどれだけ「静」を生み出し、学校全体で徹底できるか。「静」と「動」のバランスがとれた学校づくり

朝会・集会時の静かな移動、静かな待ち方、静かな掃除→自分で考え行動できる態度



授業の中での「静」（友だちを待つ姿勢、じっくり考える時間）

「静」の指導は時として道徳（どうして静かにするのか）

「静」の指導を常に「動」押さえつけるのではない

奇声や罵声が「ない学校」 いじめがない学校

(2) 学習規律の一貫性

一貫した学習規律は授業を助ける
小規模校の強みをフルに生かす

(3) 学校は社会性を培う場

○何かあったときがチャンス

「何か」が子どもを育てる。職員全員が担任

答えを子どもに見つけさせる。(教員という存在は大人の都合を押しつけようとする。

小さなことを相談できる職員室。誰でも、どの子どもでも指導できる学校組織。

○小さな子どもたちの小さな決断、点を線に、線を面に

答えを導き出した子どものその瞬間を大切に。大人だって繰り返す間違い、ましてや子どもは。

○心のこもったあいさつ、人を敬う言葉遣い

子どもたちは「大人の卵」

次世代を担う社会人の卵を育てているという自覚と誇り

↓

教師と児童の信頼関係の中にも教師としての威厳が必要

島での「なれ合い」を礼儀に

感謝する場面に気づかせる教育

事務職員、栄養教諭、調理士、用務員、PTA、e t c

自分たちの学校を自分たちのお世話をしてもらっているという感覚を育てる 気づかせる

(4) 「食」しつけ 学級のルールづくり

きれいな「食」は一生の財産

担任から配膳 「おかわり」のルール

2 授業の中で子どもを育てる

- (1) グローバル社会に生き抜く力を育てる (つながる力、つなげる力) →学び合いの充実
「個人差」と「個性」とは？

いろいろな子がいて当たり前。様々な特性を持った子どもたち (いらいらする子、お節介な子、コミュニケーションが苦手な子、つい手が出る子…) はいて当たり前。

「個人差」は矯正されなければいけないことか。個性との違いは？

様々な子ども、異年齢、大人、それぞれにどう関わるかを体験させ、気づかせ、修得させる。

学力の個人差

子どもたちの実態に合った学び合い

わからない子がいて当たり前。互いの特性がわかっているのは子どもたちかもしれない。本当に教え上手は子どもかもしれない。教えることでの学力の向上、社会性の向上。

「先生、〇〇ちゃんできるようになったよ」の言葉が欲しい。
ただ子どもに任せるのではなく、指導者としての見取りをどう行うか。

- (2) 2つの特別支援学級があることを生かす

2つの特別支援学級があること、集団生活に馴染みがたい子がいることをチャンスに。
インクルーシブル教育とは、

他人を認める教育 他人との付き合い方を知る教育 人を生かす教育 (酒井定義)

「一人の伸びを全体の伸びに！」

- (3) 授業は人づくり、学級づくり

「教師は子どもの鏡」

子どもたちの相互評価は帰りの会だけでは効果がない。

集団の定位置にいる子への子どもたちの関わりは教師が見本 (先生がどのように接するかをめざとく観察している。価値観を形成するのは教師・大人の在り方)

「人の話を聞くとほどんなことか」「人に伝えるとはどんなことか」

- (4) 子どもにわかる喜びと夢を

伸びたことに気づかせる

伸びた喜びをともに喜ぶ

できたという実感をもたせる

表現力・協調性・そして学力、それこそ子どもの夢を広げる

(5) プロとしての授業

授業参観でアピールできる授業・保護者をうならせる授業
「めあて」と「まとめ」の一体化(週案には子どもの側に立った「めあて」を)
子どもが家庭で授業の話をすればこっちのもの

3 島の子どもは島で育てる

(1) 島の財産(人・もの・こと)をフルに生かす

ともに育てている喜びを
この校舎のよさをフルに生かす 分校があることの強みを生かす
読書ボランティアとの連携(読書活動の推進)

(2) 保護者・地域とともに育てる

学校だより・学級だより・HPの充実→先に手を打つ(成果と課題を明らかに)
目標・課題・成果の共有を図る

(3) 小・中・高一貫教育の中で島の子どもたちの未来を育てる

次の10年への教育課程(遺未来史学、グローアップ科から新たな総合、特活、道徳へ)
乗り入れ授業の充実と活用
生徒指導の一貫性
大島分校との連携(分校だより、学級だよりの相互掲示)

管理職によるリードとサポート(一緒に授業づくり、学級づくり、信頼づくりを)